

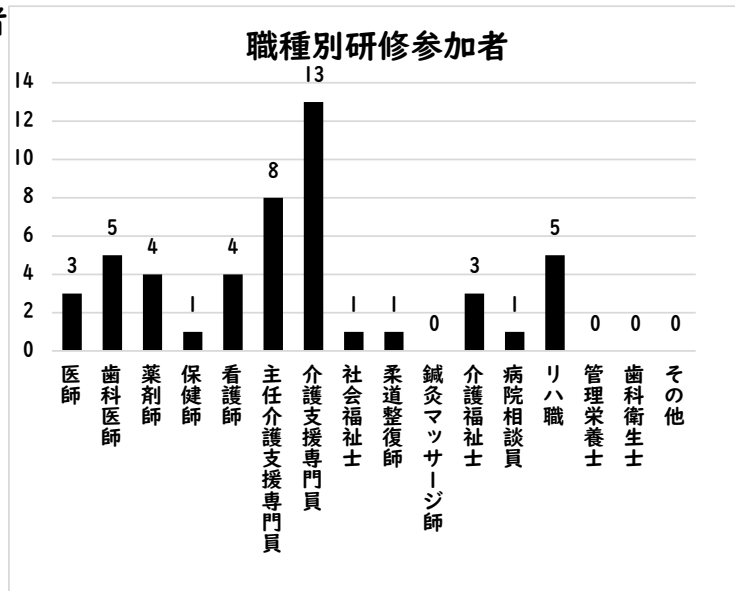
令和4年度 第2回 医療・介護関係者の研修実施報告

資料2-③

- ・開催日時 令和5年 2月1日 19:30~20:40
- ・参加者 申し込み者:49名 参加者数:47 アンケート回答数:30(回答率64%)
- ・開催方法 対面+WEBのハイブリット開催
- ・テーマ 『認知症の方への意思決定支援、どんなことに困っていますか?』
～事例を通じた意見交換(グループディスカッション)～
- ・内容 実際の事例を元に、認知機能が低下した高齢者への意思決定支援について、多職種でのグループディスカッションを実施。各職種が、実際にどのように意思決定支援を行っているかの情報共有と行うとともに、各職種が抱えている「意思決定支援」への困難・課題の抽出を行った。

1. 職種別研修参加申し込み者

職種	人数
医師	3
歯科医師	5
薬剤師	4
保健師	1
看護師	4
主任介護支援専門員	8
介護支援専門員	13
社会福祉士	1
柔道整復師	1
鍼灸マッサージ師	0
介護福祉士	3
病院相談員	1
リハ職	5
管理栄養士	0
歯科衛生士	0
その他	0
合計	49

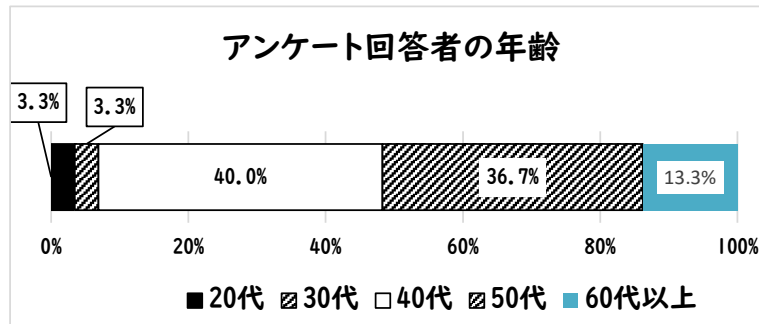


2. アンケート集計結果

- ・参加者 47名
- ・アンケート回答者 30名

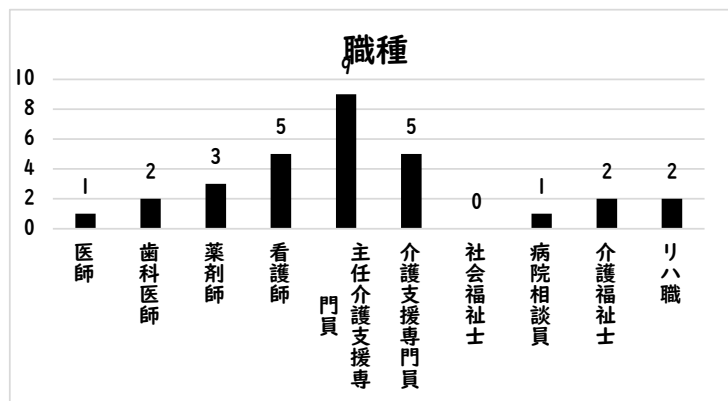
問1 年齢

年齢	人数
20代	1
30代	2
40代	12
50代	11
60代以上	4
合計	30



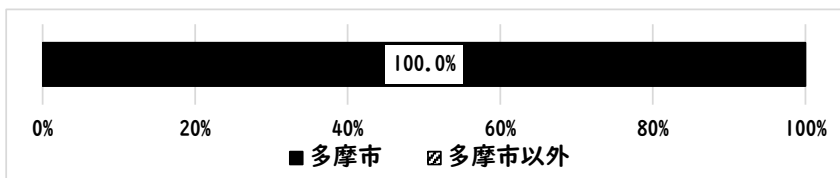
問2 職種

職種	人数
医師	1
歯科医師	2
薬剤師	3
看護師	5
主任介護支援専門員	9
介護支援専門員	5
社会福祉士	0
病院相談員	1
介護福祉士	2
リハ職	2
合計	30



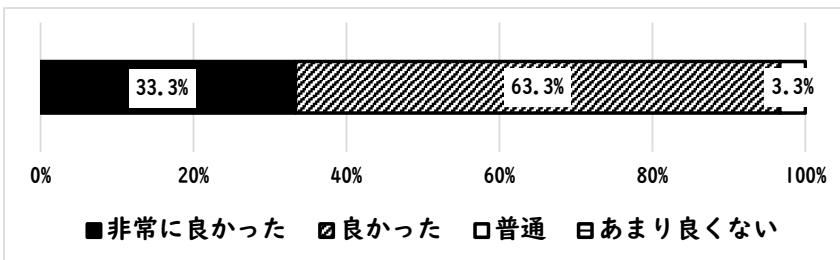
問3 勤務地

多摩市	30
多摩市以外	0



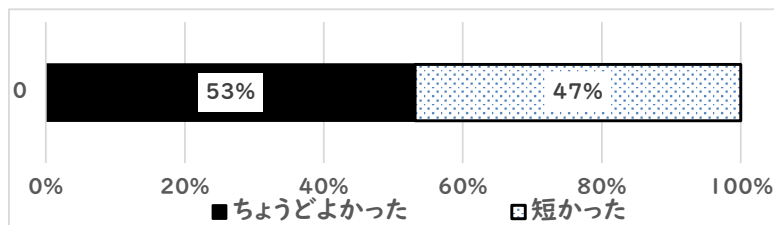
問4 研修の評価

非常に良かった	10
良かった	19
普通	1
あまり良くない	0
未回答	0



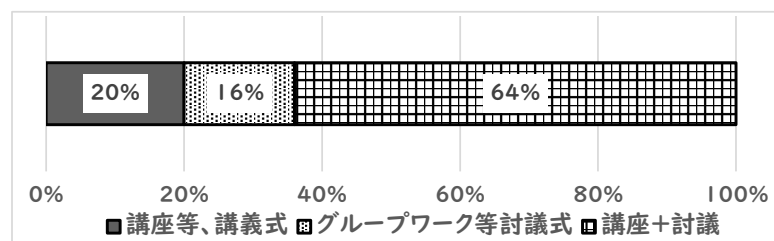
問5 グループワーク・発表の時間設定

長かった	0
ちょうどよかった	16
短かった	14
その他	0



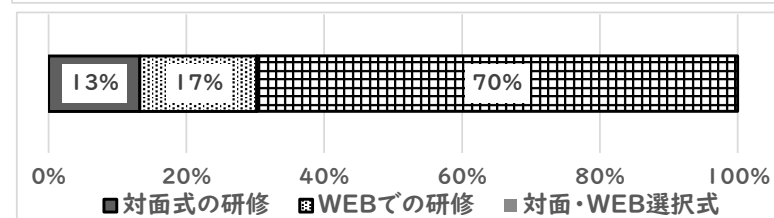
問6 今後の研修について、形式の希望

講座等、講義式	6
グループワーク等討議式	5
講座+討議	19
その他	0



問7 今後の開催方法について

対面式の研修	4
WEBでの研修	5
対面・WEB選択式	21
その他	0



問8 今回の研修会の意見等の自由記入

- ・webのグループワークいいですね。時間的にはあれが限界かと思います。
- ・職種を分けてグループワークができ、それぞれの立場での意見が聞けてよかった。
- ・グループワークを通じて多職種の様々な視点からのケースの捉え方や意見を聞くことができて良かったです。多職種からのアセスメントからの情報を共有してケースを捉え、本人の意向を尊重しながらチームとして支援していくことの重要性を再確認しました。
- ・グループワークができて、他のグループで話し合われたこともシェアしていただき、参考になりました。
- 今回の事例の経過や支援内容がとてもよかったと思います。意向確認の仕方が丁寧で、それに沿った支援があったからこそその本人や家族の反応があり、満足されている感じが伝わってきました。
- ・事業所内で3名参加しましたが、グループワーク(2人が同じグループでした)で音声が重なってしまい聞き取りづらい場面がありました。事前にグループワークのメンバーを知ることが出来れば対応できることもあるかもしれないと思いました。
- ・リモートだと雑談的に相談ができない部分があり、意見が活発に出にくいと感じている。
- ・オンラインでのグループワークは限りがあると思いました。対面と比べ意見が出にくかったり、まんべんなく意見を聞くことは難しい。
- ・今後は対面の場の機会が増えるとありがたいです。
- ・多職種の方々の意見が聞けて勉強になりました。顔の見える関係構築の観点から、次回は通常対面形式で行なってほしいです。
- ・集合とzoomのハイブリッド開催、良いと思いました。次がある際はタイミングが良ければ集合で参加したいと思います。
- ・夜間行うため時間が短いのは仕方ないと思いますが、やはり短すぎて意見を述べるのみで深堀はできませんでした。
- ・グループワークへの引継ぎの時にやはりアナウンスを入れた方がよいと思いました。
- グループワーク時間が短いので、グループワークの時は1時間30分時間をかけてもいいかと思いました。
- ・研修時間は30分早くして、もう30分長くても良いかと思います。
- ・タイムスケジュールがややタイトでした。もう少し深める時間があっても良い。

今回のケースは、本人は希望通り最後まで自宅で過ごしたということでしたが、支援者たちが本人をずっと自宅で支えていくことを納得した背景、落としどころはどこだったのか、そこを聞き取った。本人の希望と状況がマッチしていなくても、チームが本人のため共通目標を見つけ、唯一そのゴールに向かって団結して最後まで支えていけることもあるので。今回はそういうケースだったのか？それとも「なんとなく結局そのまま在宅ケース」だったのか知りたかった。

問9 今後の多職種研修の希望内容の自由記入

- ・災害時利用者のできる私達のサポートを議論し、ある程度形にしていけたら。
事業所ごとの考えはあるだろうけれど、考えをまとめるいい機会だと思います。
- ・「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定ガイドライン」をベースにした解説とグループワークがあるといい
- ・インフォーマルサービスの情報共有と、今後、多摩市に必要なインフォーマルサービスを考える研修
- ・高齢で精神疾患のある利用者の支援または家族全員が精神疾患
- ・訪問薬局について
- ・ざっくばらんに話せるフリートークの時間も設けてもいいかと思う
- ・ACPや意思決定支援についての研修などについては引き続き開催継続してもいいと思う
- ・多職種の立場が理解できるような研修
- ・前回、今回と医療職側からの取り組みであったり、事例であったので、介護職が主となれる研修が必要かと思います。事例をとりあげても、医療職と介護職ではとらえ方が違うので、介護職はこんな視点で対応しているということを医療職のかたと共有できればと思います。
- ・対応困難事例の多職種検討
- ・今回のような医師とグループディスカッションできる機会はとても貴重。今後もテーマを変えて医師と一緒に受けられる研修を希望
- ・今回の研修でも、他の職種の意見がとても参考になった
コロナが落ち着いたら、対面での研修でグループワークでそれぞれのつながりが持てたらよい
- ・今回のように事例を通じて多職種の視点からの意見が聞けるようなグループワークの手法は顔の見える関係づくりとしてよいと思う
ZOOMのブレイクアウトルームを活用した新たな試みもできたので、とてもよかったと思う
- ・定例化して長期的に研修を実施することで、同じ地域で働く仲間ができる研修会を希望